

## 実践事例④

## 段階表2-2：「『同じ』」

### 【プロフィール】

- 肢体不自由特別支援学校 小学部6年生
- 車いすやあぐらの姿勢で座位は可能。
- 要求時は、相手の目をみて手をタッチしようとすることがある。

※個別指導：毎日10分程度

### 指導技術向上のポイント！

- ✓ 学習に集中しやすい環境を常に意識し、工夫する。
- ✓ 教材を呈示する手順を覚えて、テンポよく児童の視線の動きをリードする。
- ✓ 集中が途切れそうになったら、課題の順番を入れ替えるなど柔軟に対応する。

### 1 実態把握

個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より	
<p>&lt;運動機能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 利き手：右手</li> <li>☑ 目の使い方：チラッと見て確認する。</li> <li>☑ 指、手首、腕の使い方：食具を自分で持ち、口に運んだ後、元に戻すことができる。</li> <li>☑ 姿勢の様子：車いすやあぐらの姿勢で座位が可能。</li> </ul>	<p>&lt;見え方の特性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 有効な視空間：目からの距離30cm。眼鏡使用。</li> </ul> <p>&lt;YES、NOの表出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ YESの表出：相手と目を合わせ、手を動かす。</li> </ul> <p>&lt;できること・好きなこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 楽器遊びや、好きな動画を見ること。</li> <li>☑ 延滞<sup>5</sup>や形の弁別の学習を通して、追視や注視、見分ける力が育ってきた。</li> </ul>

<sup>5</sup> 延滞の学習：実践事例③で取り上げたふたをした2つの箱のうち、物が入っている箱を記憶して、選択する学習。段階表1-3の「記録・記憶の保持・想起・推測」の学習。

### 2 指導目標の決定

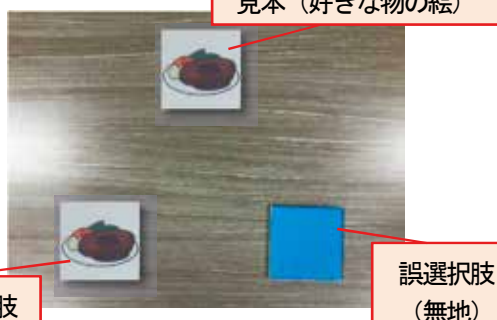
- ① 絵カードを用いて、見本と同じ絵を選ぶ。

### 3 「段階表」から選定した指導内容

		小学部 国語と算数 2段階	
		2-1	2-2
概念形成	空間・位置・方向	<div style="border: 2px dashed red; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>「同じ」の概念形成 絵と絵（身近な物）</p> </div>	

### 4 教材の決定

#### 【絵カード】



#### ①選定理由

- ・○△□の形の弁別課題を通して形を見分ける力が身に付いてきた。
- ・延滞の学習において、音が出る玩具を使用していたが、玩具よりも絵カードに関心をもち、よく見るようになってきたため、児童が好きな絵を見本とし、2つの選択肢から同じ物を選ぶ学習に進んだ。

#### ②使い方

- ・見本と見比べて、見本と同じ絵のカードを選ぶ。

# の概念形成」 (絵と絵 (身近な物))

## 5 環境の設定

- ☑ 課題に集中しやすいように、衝立を用いて空間を仕切る。
- ☑ 児童の手が教材に届かない程度の広さの机を用意する。
- ☑ 教員のいすの高さを、児童の視線の合う高さに設定する。



衝立で個別指導の空間を仕切り、集中しやすくする。

教員用のいすは、児童と教員の視線が合う高さのものを準備した。



## 6 指導の経過

指導開始時の学習状況

・絵カードに視線が向くこともあったが、教材が呈示されるテンポが崩れると集中が途切れる様子があった。

### 指導教諭等によるOJT + 外部専門家による指導



個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ これまでの積み重ねを生かし、机やいすの高さや大きさ、衝立の使用など、**児童が集中できる学習環境を整える視点**が身に付いています。
- ◎ 児童の反応に合わせて、「できたね」など肯定的な言葉掛けが自然にできるようになりました。
- ▲ 形の弁別と同様に、「同じ」の概念形成の学習においても、選択肢の呈示の順番など、細かなステップがあります。今回は、教材を呈示する順番やタイミングがずれたことにより、児童の集中が途切れ、教材に視線が向かなくなる場面がありました。
- ▲ 呈示する手順を覚えることは大変ですが、**先輩の教員等とペアになって練習する**など、実際に手を動かして覚えるのが効果的です。
- ▲ 児童の集中が途切れた時には**他の課題に切り替える**など、気持ちをリセットして再度集中を促しましょう。

### 改善後…

#### 【課題の順番を入れ替える工夫】

児童の集中が途切れた時に、動くボールを目で追う課題に切り替えてみました。

※使い方:入れ物を左右に傾けてボールを動かす。



児童が好きな課題、そしてそれまで取り組んでいた課題とは趣向が異なる課題を選んだところがよかったです。その後、児童も気持ちを切り替えて、集中力が戻っていました。教材を呈示するテンポもよくなり、学習全体にリズムができていました。

## 7 指導のまとめ

- **教材の呈示をテンポよく進められるようになったこと**により、児童の集中も途切れることなく、学習が進むようになりました。
- 「これと同じのどれ？」の言葉掛けに応じて、正選択肢を見ることができるようになり、「**見本と同じものはどれかな**」と考える力が育ってきています。
- 今後は、誤選択肢を無地から絵に替えるなど、少しずつ課題の難易度を上げていきましょう。

# 実践事例⑤

# 段階表 2-3 : 「単語構成」

### 【プロフィール】

- 聴覚障害特別支援学校 中学部2年生
- 感音性難聴（両耳 60db）、補聴器装用
- 興味が限局的でこだわりがある。

※個別指導：週1回 各20～30分程度

### 指導技術向上のポイント！

- ✓ 誤選択肢は、児童が正選択肢を見たタイミングですばやく撤去する（しまう）。
- ✓ 生徒に間違えさせないように、身体的援助やポイントニングで正解に導く。

## 1 実態把握

### 個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より

#### <運動機能>

- ☑ 利き手：右手を使うことが多いが定まっていない様子がある。
- ☑ 目の使い方：興味があるものを凝視するような特性がある。
- ☑ 指の使い方：指文字をはっきり表現できる。
- ☑ 姿勢の様子：座位の保持が可能。

#### <YES、NOの表出等>

- ☑ 手話や指文字、指さしで表現する。表現できる手話は限られていて、自分の意思を主体的に表現する力が乏しい。
- ☑ 物-手話-指文字-文字を関連付けて理解することが難しい。

#### <できること・好きなこと>

- ☑ 平仮名の視写ができ、最近は漢字に興味がある。
- ☑ 特定の色や絵、写真を好む。興味の対象は変わりやすい。

## 2 指導目標の決定

- ① 1・2文字の単語について、絵-手話-指文字-文字を関連付けて理解する力を高める。
- ② 平仮名や漢字を書く力を養う。

## 3 「段階表」から選定した指導内容

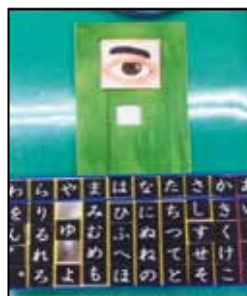
		小学部 国語と算数 2段階	
		2-1	2-3
概念形成	空間・位置・方向		
認知・操作	目と手の協応		<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <p><b>単語構成の導入</b> 絵を見て単語カードを選ぶ (1文字)</p> <p><b>単語構成</b> 絵を見て単語カードを構成する (2文字・3文字)</p> <p><b>目と手の協応</b> なぞり書き(平仮名)</p> </div>

## 4 教材の決定

### 【指文字カード】



### 【単語構成板】



#### ①選定理由

- ・絵-文字-指文字-手話を関連付けて理解するために、1文字の単語構成から始める。

#### ②使い方

- ・絵カードを見て教員と一緒に手話と指文字で名称を確認した後、指文字カードを枠に入れる。
- ・指文字カードを参考に、ひらがな文字カードを選んで枠に入れ、単語を構成する。
- ・絵-手話-指文字-文字をセットで確認する。

# (1・2文字)、「目と手の協応」(なぞり書き)

## 5 環境の設定

- ☑ 生徒の身長に合わせて、机やいすの高さを調整した。
- ☑ 教員は生徒の正面に座る。

## 6 指導の経過

指導開始時の  
学習状況

- ・個別指導開始当初は慣れない状況に戸惑っていたが、毎週同じ曜日・時間に設定し、継続すると、見通しがもてるようになり、離席が減り、落ち着いた。
- ・1文字の単語構成を繰り返したことで流れを理解し、学習の進め方が分かってきた。

### 指導教諭等によるOJT



個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ 生徒の目の動きや手の動きを把握し、言葉掛けやポインティングで教材に注目を促すことができていました。
- ◎ 正解の後、手話やハイタッチを用いて、生徒に伝わる褒め方が身に付いてきました。
- ▲ 誤選択肢を撤去するタイミングが少し遅かったようです。生徒に正解をしっかりと意識付けさせるためにも、生徒が正解を選択したら素早く誤選択肢を撤去する動きを身に付けましょう。
- ▲ 生徒が間違えてから教員が修正をすることが何度かありました。基礎的な学習では、生徒に間違えさせない支援をすることが重要です。生徒が間違えそうになったら、正解に導くポインティングをタイミングよく行いましょう。

### 改善後…

#### 【2文字の単語構成】



枠がある提示板を置いたことで、注目しやすくなりました。

#### 【文字のなぞり書き】



平仮名、漢字ともに、手元をよく見て書けるようになりました。

単語構成は1文字から2文字に進み、指文字や手話と対応させながら文字を学習する力が身に付きました。  
単語構成の後になぞり書きをするという流れも定着し、なぞった後に、見本をみて自分で視写するなど、学習に意欲的に取り組みました。

## 7 指導のまとめ

- これまでは、物の名前は知っていても、「物-手話-指文字-文字」の関連付けが曖昧でしたが、1文字から順番に単語構成の学習を行ったことにより、理解が明確になってきました。
- 学習を進める手順が一定で、間違えさせない支援を意識し、成功体験を積み重ねた結果、生徒が達成感を味わいながら取り組むことができていました。
- 今後は、取り扱う単語の文字数を増やすなど、系統的な学習計画を立て、生徒の言語能力を高めていきましょう。

# 実践事例⑥

# 段階表 2-3 : 「単語構成」

### 【プロフィール】

- 肢体不自由特別支援学校 中学部2年生
- 脳性麻痺
- 身の回りの物の名称と用途は理解しており、絵カードで答えることができる。

※個別指導：週3回 各30分程度

### 指導技術向上のポイント！

- ✓ 生徒の手が届かない場所に教材を置き、文字カードを見比べて視線で選択したら教材を近づける。
- ✓ 教員は余計な動きをせず、手際よく教材を扱う。
- ✓ なぞり書きをする際に使用する道具や環境設定を工夫し、適切に支援する。

## 1 実態把握

### 個別指導のポイントチェックリスト【指導計画編】より

<p>&lt;運動機能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 利き手：右手が先に動くことが多い。</li> <li>☑ 目の使い方：眼鏡使用。教材をチラッと見た後に投げることがある。</li> <li>☑ 指の使い方：不安定だが、右手は親指とその他の指で物をつまむことができる。</li> <li>☑ 姿勢の様子：集中力が下がると前かがみになったり後ろを向いたりすることがある。</li> </ul>	<p>&lt;YES、NO の表出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 身振りや手指を使ったサイン、絵カードで自分の意思を表出できる。</li> </ul> <p>&lt;集中できる時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 予定や順番などに見通しがもてると、一定時間集中して学習に取り組むことができる。</li> </ul> <p>&lt;できること・好きなこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 手遊び、プットイン教材、文字を書くこと。</li> </ul>
--	--

## 2 指導目標の決定

- ① 3文字の平仮名の単語を正しく構成できる。
- ② 支援を受けながら文字をなぞり文字の読みの定着を図るとともに、目と手の協応動作を高める。

## 3 「段階表」から選定した指導内容

		小学部 国語と算数 2段階	
		2-1	2-3
概念形成	空間・位置・方向		<div style="border: 2px dashed red; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p><b>単語構成</b> 絵を見て単語カードを構成する (2文字・3文字)</p> </div>
認知・操作	目と手の協応	<div style="border: 2px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p><b>目と手の協応</b> なぞり書き (平仮名)</p> </div>	

## 4 教材の決定

### 【単語構成版】 3文字



#### ①選定理由

- ・木製教材で、はめるときの音がよい。
- ・学校管理の貸し出し教材で、すぐに使用できる。
- ・絵カードは、生徒に分かりやすいイラストを使用している。

#### ②使い方

- ・絵カードを見て、文字カードを順番に選んで枠に入れ、単語を構成する。

# (3文字)、「目と手の協応」(なぞり書き)

## 5 環境の設定

- ☑ カーテンや衝立で仕切り、集中しやすい空間を作る。
- ☑ 教材に手が届かないように、広い机を使用する。

## 6 指導の経過

指導開始時の  
学習状況

- ・利き手側に正選択肢を呈示する課題では、正選択肢に視線は向いたが、手の動きに迷いがあった。
- ・生徒が教材に手を伸ばして投げそうになる場面があった。

### 指導教諭等によるOJT + 外部専門家による指導



個別指導のポイントチェックリスト【指導実践編】を踏まえた指導教諭等からの助言

- ◎ 生徒の視線が向かないときに、言葉掛けやポインティング、姿勢を整える支援を行い、見ることを促すことができていました。
- ▲ 生徒と教材の距離はもう少し離れたほうがよさそうです。また、正選択肢を選んだら、生徒が見やすい位置に文字カードを呈示し、しっかりと確認しましょう。
- ▲ なぞり書きをする際、紙が動いてしまうので、クリップボードを挟むなどして固定させましょう。手首の拘縮はないので、もっと手首を立てるなど、安定して書きやすい支援を検討しましょう。

### 改善後…

#### 【改善前】

○学習時の環境設定 (机、教材の呈示位置)



○なぞり書きの環境設定、支援方法



#### 【改善後】



手首を立てる



クリップボードで固定

カッティングテーブルを使用することで生徒と教材との距離が適切になりました。  
教材を呈示する手順にも慣れ、教員の動きが精選されたことにより、生徒の視線の動きを上手く引き出せています。

クリップボードで紙を固定することで書きやすくなりました。  
生徒が手首を立て、腕を机に付けて書くよう支援をしたことで、書き方が安定しました。

## 7 指導のまとめ

- 学習環境を整えたことにより、学習中の姿勢の崩れや集中の途切れがほとんどなく、意欲的に学習することができるようになりました。
- 1文字、2文字、3文字と単語構成の学習を積み重ねてきたことにより、生徒が学習に見通しをもち、学習意欲も向上してきました。教員の言葉掛けやポインティングのタイミングも上手くなってきています。
- 文字のなぞり書きも意欲的です。教材設定の工夫や適切な支援の効果が表れています。